

経営比較分析表（令和4年度決算）

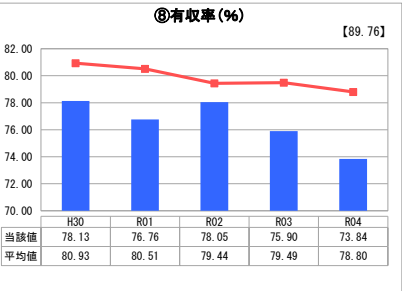
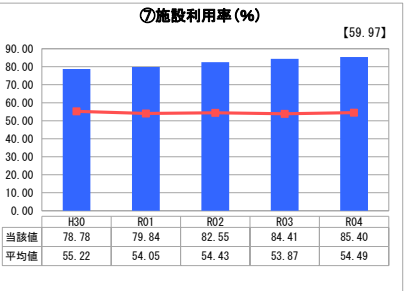
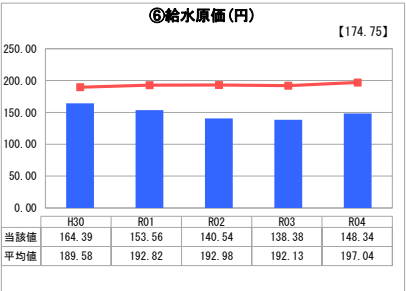
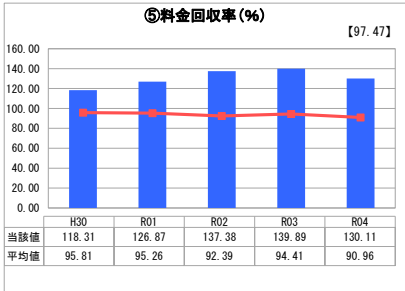
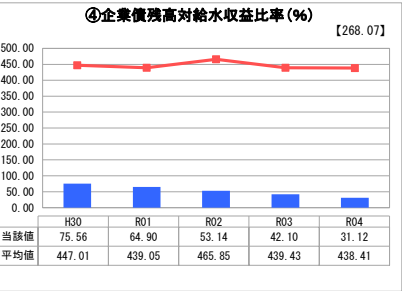
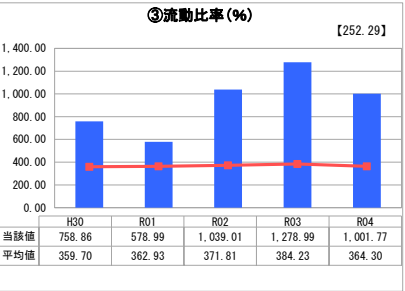
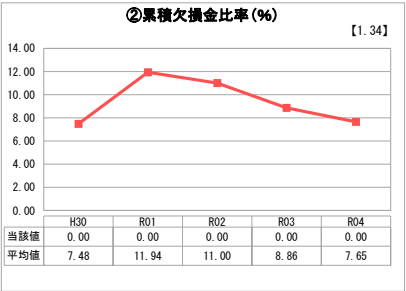
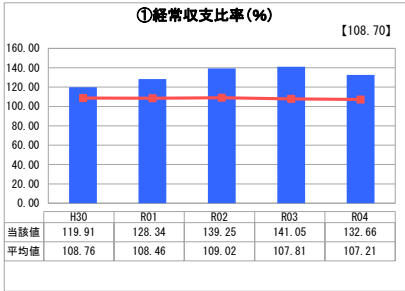
宮崎県 川南町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	93.90	94.72	3,828	

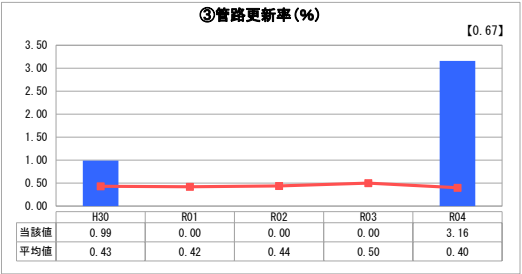
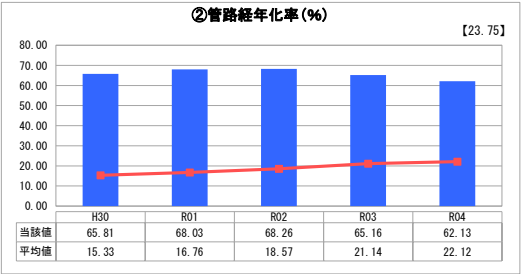
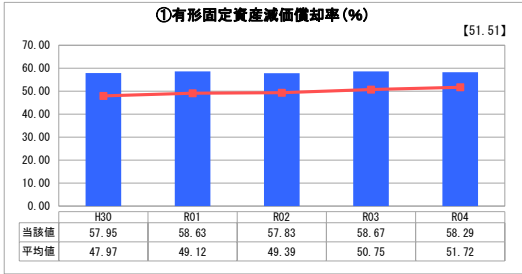
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,095	90.13	167.48
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
14,219	54.90	259.00

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

○経営の健全性
経常収支比率は、電気料金等の値上がりなどにより前年度から8.39ポイント減となりましたが、全国平均と比べて高い水準にあります。
累積欠損金比率は、引き続き0%です。
流動比率は、前年度から277.22ポイント減となりましたが、全国平均と比べて高い水準にあり支払い能力は十分にあります。
企業債残高対給水収益比率は、前年度から10.98ポイント減となりましたが、全国平均と比べて低い水準にあります。これは、新たな起債をせずに、既存の償還が進んだことが要因と考えます。
料金回収率は、物価高騰により前年度から9.78ポイント減となりましたが、全国平均と比べて高い水準にあります。

○経営の効率性
給水原価は、物価高騰により前年度から9.96円増となりました。
施設利用率は、漏水が年々増加しているため増加傾向となっています。
有収率は、漏水の増加により前年度から2.06ポイント減となり、全国平均より低い状況です。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、58.29%と前年度並みでしたが、全国平均と比べやや高い傾向にあります。
管路経年化率は、前年度から3.03ポイント減となりましたが、全国平均と比べ非常に高い状況です。
管路更新率は、前年度から3.16ポイント増と大きく伸ばしました。ここ数年の管路更新の考え方を見直し、数値の計上方法を変更したことにより、以前に行った工事事も計上したために大きな伸びとなりました。しかし、まだ法定耐用年数を経過した管路が多い状況です。

全体総括

経営の健全性は、維持している一方で設備の老朽化が進んでいます。特に管路の老朽化が著しく、漏水が年々増加しています。また、大規模な地震に備えるため、施設の耐震化を推進する必要があります。
そのため、近年は管路の更新・耐震化工事・災害対策を積極的に行っていますが、更新・耐震化等が必要な設備が多いため、経営戦略に基づきアセットマネジメント等を活用し、計画的・継続的に投資を行う必要があります。